



Viet Nam

学校名：市原市立五井中学校

氏名：山口 三依子

[担当教科：] 英語

- 実践教科等： 道徳・学活
- 時間数 : 4時間
- 対象生徒 : 1年生4クラス
- 対象人数 : 276人

1 単元名

「幸せって何だろう？」（私たちの道徳）

2 単元の目標

ESD の視点に立った学習指導で重視する能力・態度(国立教育政策研究所が例として示したもの)

- ・自分の考えを簡潔にまとめ、相手に伝えることができ、相手の意見を取り入れて自分の考えを深めることができる。(コミュニケーションを行う力)
- ・ベトナム、ガーナ、ガボンの人々の考え方や生活から、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める。(多面的・総合的に考える力)
- ・障害を持ちながらも、幸せを感じ懸命に生きるドクさんの姿から、主体的に社会に貢献する態度を育てる。(つながりを尊重する態度)

3 単元の指導について

(1)教材観

ガーナ、ベトナム、ガボンという国を例にとり、異文化や様々な人々の生活、考え方から、「自分にとっての幸せとは何か」、よりよく生きているドクさんの生き方から、「なぜドクさんは幸せに生きているのか」ということを主体的に考えることをねらいとしている。

1時間目のガーナのカカオ農園で働く子どもの教材では、「毎日、学校に行けること」「ごはんが食べられること」「水道をひねれば水が出ること」など、私たち日本人が当たり前だと感じていることが、ガーナでは当たり前ではないことを考えさせながら、自分たちの幸せや、ガーナの子どもたちが幸せに生きていくために必要なことを考えることができる授業にしたいと考えた。

2時間目は、ベトナムの留学生の新聞記事から、「幸せって何だろう」ということを、インタビューのスライドやダイヤモンドランキングを使い、主体的に考えられるようにした。

3時間目は、日本とベトナムの架け橋となり、幸せを感じながらよりよく生きているドクさんの生き方から、よりよく生きるということについて考えることができる授業の実践を行った。

4時間目は、実際にガボンで海外青年協力隊として働いていた永井さんの講話から、ガボンの人々の幸せについて考える機会とした。

(2)生徒観

1年生の生徒の中には、両親が外国人である生徒、外国籍の生徒が数名いる。それ以外の生徒は、外国に行ったことがある生徒は少ないが、英語の授業で外国の文化や生活が紹介されているUnitでは、興味・関心が高く、一生懸命授業に取り組む様子が見られる。

一斉授業の発表では、積極的に発言する生徒と、おとなしい生徒が見られるため、ペアワークや、グループ学習を取り入れ、自分の意見を伝えたり、友達の考えを聞いたりして、主体的に考えられる授業を多く取り入れている。

(3)指導観

本単元においては、多面的・多角的に物事をとらえることができるように、3つの国を人々の生活、文化、考え方をとらえさせながら、自他の幸せについて主体的に考えさせていきたいと考えている。

1時間目と4時間目では、学年道徳、学年学活という形で、みんなで同じ映像を見て、感想を書き、それを学年便りなどで共有したいと考えている。2時間目は、個々で考えたことをグループの中で発表するという形での授業とした。3時間目はペア・グループ・全体というように学習形態を変えること、ジグソー法を取り入れることで違った角度から自分の考えを深める機会を設けたいと考えている。

本単元においては、道徳の授業として行うが、国際理解教育、人権教育、教科等に結び付け、横断的に学習していきたいと考えている。

4 評価規準

観点	道徳的実践意欲・態度	道徳的心情	道徳的判断力
評価規準	・ガーナ、ベトナム、ガボンを通し、いろいろな国の人々の生き方や、価値観に興味・関心を持つことができる。	・映像や資料に登場する人物の生活・文化・考え方を理解したり、読み取ったりすることができる。 ・ドクさんの姿から、なぜ幸せに生き生きと過ごしているのか考えることができる。	・自分の内面に働きかけ、多面的・多角的に物事を考えることができる。 ・自他の「幸せとは何か」を主体的に考えることができる。
評価方法	学習への取り組み・発表・発言	・ワークシートの記述	・ワークシートの記述・感想の内容

5 単元の構成

時限	小単元名	学習のねらい	授業内容
1 道徳	ガーナのカカオ農園で働く子どもたち	自分たちの生活とガーナの子どもたちの生活の違いを知り、「幸せ」について考える。[内容項目 B-9 相互理解・寛容]	①「世界が100人の村だったら」のDVDを見て、自分たちとの違いをメモし、「当たり前の幸せ」について考えて、自分の意見を書く。 ②ガーナのカカオ農園で働く子どもたちのためにできることを考える。
2 道徳	「幸せって何だろう？」	「幸せとは何か」について考えることができる。 [内容項目 A-3 向上心・個性の伸長]	①「私たちの道徳」の「幸せって何だろう」のテーマから、留学生の新聞記事、ベトナムの人へのインタビューを用いて、自分の幸せについて考える。 ②ダイヤモンドランキングを用いて、友人と意見交換する。
3 道徳	ドクさんの生き方から学ぼう	幸せを感じながらよりよく生きているドクさんの生き方から、よりよく生きるということについて考えることができる。 [内容項目 D-22 よりよく生きる喜び]	①ドクさんの紹介をパワーポイントで行う。 ②ジグソー法で行う。「なぜドクさんは幸せを感じながら、よりよく生きているのか」をそれぞれの資料から読みとり、グループで話し合い、キーワードを考える。 ③学級全体で、それぞれのグループから出てきたものを共有する。
4 学活	ガボンの国から考える幸せとは？	ガボンの人々の幸せについて考えることができる。	①青年海外協力隊でガボン活躍していた永井さんの話を聞く。 ②感想用紙を書く。 ③生徒の感想を学年便りで共有する。

6 授業事例の紹介

小単元名[ドクさんの生き方から学ぼう] 道徳 [内容項目 D-22 よりよく生きる喜び]

(1) 指導案

(ア)実施日時 2018年11月8日(火)3時間目

(イ)実施会場 1年1組教室

(ウ)本時の目標 幸せを感じながらよりよく生きているドクさんの生き方から、よりよく生きるということについて考えよう。

(エ)指導のポイント ・ドクさんをほとんどの生徒が知らないため、最初のスライドで、ドクさんの生い立ちや今現在の活躍について知る。

・ジグソー法を用いて、生徒は資料から読みとった内容や考えたことを相手に伝え、相手からも情報や考えを聞いて、協力してキーワードを考える。

・ジグソー法を行うのは初めてなので、どのような活動なのかを生徒に分かりやすく伝える。

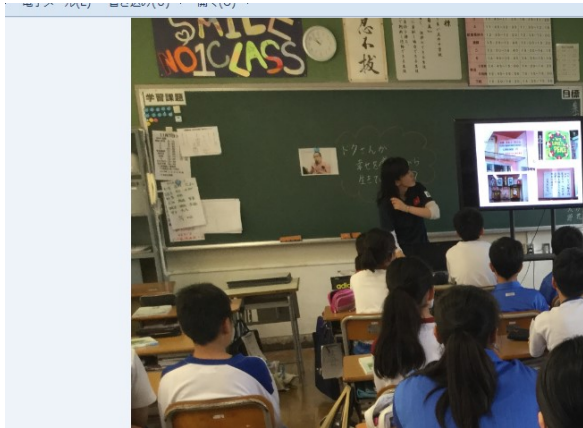
(オ)本時の展開

過程・時間	指導内容	学習活動	指導形態	指導上の留意点	評価 (評価規準・評価方法)
3分 導入	今日の授業の「ねらい」を確認する。	「ねらい」を理解する。	一斉	前回の授業との関連について話す。	
12分 展開	・パワーポイントを使って、ドクさんの紹介をする。 ※1	・ドクさんの生い立ちから、現在を紹介し、大変な困難から多くの人々の支援を受け、強く生きてきたドクさんの姿を見る。	一斉	・パワーポイントを使って、分かりやすく説明する。	・ドクさんの生い立ちから現在までを理解しようとしているか。
5分 展開	・資料 A,B,C の3パターンの1つを配る。 ・「ドクさんが現在、幸せを感じながらよりよく生きているのはどうしてだと思いますか」と発問し、資料を用いて自分の考えをまとめる。 ・同じ資料を持っているペアで意見交換をする。※2	・配られた資料 A,B,C の1つを読む。 教師の発問「ドクさんが現在、幸せを感じながらよりよく生きているのはどうしてだと思いますか」に対し、自分の考えを、資料をもとにして考える。	個人	・その後のペアワークや、グループ活動のメンバーも考えながら、資料を配る。 ・机間支援を行い、生徒の活動の様子を把握し、活発に意見交換できるように支援する。	・資料にアンダーラインなどを引いて、まとめているか。 自分の意見を友達に伝え、友達の意見も聞きながら自分の意見を深めているか。

JICA 教師海外研修 授業実践報告書フォーマット

	3人グループによるジグソー法で考えを共有し、ドクさんの幸せについてキーワードを考える。 ※3	・資料 A,B,C の3パターンの資料を持っている生徒でドクさんの幸せについてのキーワードを考え、紙に書く。 ・資料 A,B,C の3パターンの資料を持っている生徒でドクさんの幸せについてのキーワードを考え、紙に書く。	グループ	・みんなが意見を出せていないグループには声かけをする。	・3人で意見を出し合っているか。
10分	・黒板にキーワードを貼って共有する。 ※4	・グループのうちの一人が発表する。	一斉	・発表したら、その紙をすぐに黒板に貼る。	・他のグループの発表をきちんと聞いているか
5分	・教師の話 ・感想の記入	ドクさんの生き方から考えたことを書く。	一斉 個人	・時間が足りない場合には宿題にする。	

パワーポイントによる説明※1



ペア活動※2



ジグソー法 ※3



クラス全体での共有 ※4



(2) 授業の振り返り

生徒は、2時間目に行った授業で、ベトナムの人々の暮らしや文化、考え方が日本と異なることに興味を持ち、3時間目の授業で、もっとベトナムについて知りたいという気持ちで授業に臨んでいた。ベトナム・ドクさんの生い立ちや生き方から、2時間目は幸せを自分事として考える授業だったが、3時間目の授業では障害を持ちながらもよりよく生きようとするドクさんの姿から、また違った角度から幸せについて考えることができたと思う。

今まで、道徳の授業の中で、生徒たちが自分の考えたことを伝えたり、友達の考えを聞いたりする活動をグループ学習の中で多く取り入れてきた。今回の授業では、JICA の事前研修で教えていただいたジグソー法を初めて道徳の授業で行った。それぞれ、グループの中で自分だけが持っている情報のため、その資料をしっかりと読み、グループの他のメンバーに伝えようとしている様子が見られた。また、その情報をグループでまとめながら、「ドクさんが現在、幸せを感じながらよりよく生きているのはどうしてだと思いますか」という問いに対して、真剣に考えてホワイトボードに記入していた。

課題としては、中学1年生ということもあり、まだベトナム戦争についての知識がほとんどないために、「枯葉剤とは何だろう？」など、むずかしい内容があった。また、1時間の授業で行うには内容が盛りだくさんだったので、また来年度に実施するときには2時間展開の授業にするなどして、しっかりと時間をとり、もっと深まりのある授業にしていきたい。

(3) 使用教材

① 自作パワーポイントの一部



(4) 参考資料等

- ・写真：日本赤十字社提供 ・朝日新聞 DEZITAL 2011年4月14日 ・朝日新聞 2015年5月1日
- ・毎日新聞 DEZITAL 2017年3月3日 ・産経 WEST 2018年7月28日
- ・今回の海外研修でのドクさんへのインタビュー ・フォトジャーナリスト中村梧郎さんへのインタビュー
- ・ドクちゃんは父になった 高文研 2014年

7 単元をとおした児童生徒の反応/変容

1時間目 ガーナのカカオ農園で働く子どもたち

(生徒の感想より)

授業前アンケート

質問：カカオ農園で働く人々はどんな生活をしていると思いますか？

- ・毎日チョコを食べて、糖尿病になってそう。
- ・たまにチョコが嫌いな人がいそう。裕福な暮らし
- ・何不自由なく暮らしていそう。
- ・カカオのせいで虫歯だらけ。・いつもほのほのしている。・カカオがごはん？
- ・逆にカカオを1年に1回ぐらいしか食べない。・意外とひまそう。・暖かい地域に住んで、葉の家で暮らしている。
- ・つらくて、子どもも働いて貧しい生活。

授業後の生徒の感想

- ・私たちがいつも食べているチョコレートは、子ども達が苦勞して働いてとったカカオから作られているこ

とが分かりました。私たちは当たり前前に学校に通えていて幸せだなと思いました。フェアトレードのものを買おうと思いました。

- ・自分たちは当たり前のように生活しているけど、他の国では子どもとか関係なしに、仕事をしていて、お金を稼いでいる。親を楽にさせてあげたいという気持ちを子ども達が持っていた。本当は学校に行ける年なのに、四六時中仕事をしていて、ろくに勉強できずに、親のために働いてすごいと思った。尊敬しなきゃいけない存在だと思った。これからは当たり前前にやっていることを当たり前と思わずに、生活していこうと思った。

2時間目 「幸せって何だろう？」

(生徒の感想より)

- ・この道徳を通して、改めて幸せについて考えることができました。ランキングは悩んだけど「家族」にしました。これからも、家族や友人、笑顔など大切にしていきたいです。
- ・ベトナムの映像を見て、みんな笑顔だったので、「楽しそうだな」と思いました。
- ・ベトナムの人たちは、自分の幸せよりも家族や友人の幸せを願っている人が多くて、心優しいと思いました。大切な人がいるってとてもよいことだと思います。

3時間目 ドクさんの生き方から学ぼう

(生徒の感想より)

- ・今日の授業で、幸せについて知ることができました。ドクさんのように、子どもを作れたことは本当に幸せと感じる人や、ビールを飲むことが幸せなど色々な幸せの形がある。このことをよく知ることができ、自分の幸せについても考えられるよい授業でした。
- ・ベトナムさん、ドクさんは、不自由な生活を送っていたのに、自分自身にも、未来にも幸せを願う姿勢にはとても自分にはまねできないと思った。ひとり一人の個性が違うのは当たり前だけど、きっと二人は差別的なものも受けていたと思うので、希望を持って前を向く姿はすごいと思った。
- ・ドクさんのように障害を持っていても、幸せは誰もが叶えられる事が分かりました。枯れ葉剤をまいたアメリカのことを忘れて、将来のために頑張っていることがすごいと思います。今、自分ができることを考えて、ドクさんのように人の役に立てる人になりたいです。

4時間目 ガボンの国から考える幸せとは？

ガボンで青年海外協力隊として働いていた永井さんの講演会では、日本で当たり前だと思っていることが、ガボンでは当たり前ではないことなどを、永井さんがスライドを用いて楽しく講演して下さった。生徒が目を輝かせながら話を聞いている姿が印象的だった。その後のお礼の手紙や感想の中にも「もっと発展途上国のことを勉強したい」「幸せって自分の身近にたくさんあるんだ」などの感想があった。

8 授業実践全体の成果と課題及び課題の改善策

今回の研修に参加するにあたり、この研修に参加した自分だけができる授業ではなく、学年の職員みんなに還元し、ベトナムに行っていない先生方でも実践できる授業プランを考えました。学年の職員の中には若手の先生も何人かいたので、なるべく早めに授業案を作り、学年会などで説明した。その結果、先生方も国際理解教育に大きな関心を持たれたこと、授業後に、職員室で授業についての感想や生徒の反応などをみんなが話題にしていたことはこの実践の大きな成果だと思われる。課題としては、道徳だけではなく、総合の時間などもつなげながら横断的な学習を取り入れたかったが、年度初めに、年間指導計画を作っているの、なかなか予定していない計画を取り入れるのがむずかしかった。

9 教師海外研修に参加して

今回の研修に参加して、一緒にベトナムに行った10人の教員、JICA の深林さん、東京都市大学の佐藤教授、現地の人々など様々な出会いがあった。事前研修、ベトナム研修では、多くの情報が入ってきて、その情報を整理して、自分の授業実践の中でどこに焦点を定めていくのかを見極めていくことが最も大変だった。また、佐藤教授からは何かを考えると、多面的に見ること、つながりで見ることの大切さを教えていただいた。今まで色々な研修を受けてきたが、ここまで色々なことを深く考えた内容の濃い研修はなかったと思う。この一年間を通して学んできたことを、来年度の授業実践の中に取り入れ、今回自分が作った授業の指導案をこれから改良し、さらによいものにしていきたい。

この研修で得た貴重な体験をこれからも多くの先生方に還元し、学び続けていきたいと思う。